

**申6号**「安全第一、サービス品質向上、駅業務を担う人材育成を成し遂げ、  
鉄道事業者の使命を果たせる駅職場実現を求める申し入れ」  
**交渉での成果は！**

**「常時運転取扱いのある駅」**

**「新幹線停車駅」**

**「地区駅」のJR本体での運営を確認！**

**「駅業務を担う人材の確保及び育成の重要性」を確認！**

**駅業務の人材育成の場を本体に残していくことを確認！**

駅職場の運営体制については、「NF2008における今後の駅のあり方」「駅業務委託のさらなる推進」での労使議論を踏まえ実施してきました。そのような中、会社は2015年11月に「仙台駅の出札窓口業務委託」を提案し、その他にも大規模駅の一括業務委託を模索するなど、「駅は将来『子会社化』されてしまうのだろうか？」といった組合員の不安が増大していました。

本部は12/1、2で申6号交渉を行い、駅職場の将来像について議論を行いました。交渉では、①「常時運転取扱いのある駅」「新幹線停車駅」「地区駅」を本体運営する駅として確認 ②「駅業務を担う人材の確保及び育成の重要性」を確認 ③ 駅業務の人材育成の場を本体に残していくこと」を確認、するなど、大きな成果を勝ち取りました。一方で会社は「『常時運転取扱いのある駅』『新幹線停車駅』『地区駅』であっても一部コーナーは業務委託を進めることが可能」と主張し、組合は「上記の3駅は全てのコーナーを本体運営とすべきだ」と主張するなど、労使で意見があっていない課題もあります。今後、個々の駅については、各地本一支社間で議論がスタートします。職場の実態に踏まえて、あるべき駅職場を実現していかなければなりません。まもなく職場には「職場討議資料」が届きます。これを基に、全職場から将来を見据えた議論を創り上げていきましょう。今が勝負時です！！

**今が駅の将来を決める勝負時だ！**

**将来を見据えた駅職場を職場から創り上げよう！  
17春闘に向け全てのたたかいを結集させよう！！**